

# 2021年度 法科大学院

## 第5期入学試験問題

### 3 時限

### 刑法

### (論文式)

## 試験時間 50 分

#### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

## [刑法]

次の事例において、X、Yに係る業務上過失致死罪の成否を検討する上で問題となる点を挙げ、同罪が成立するには、如何なる事実が証明される必要があるかにつき、論じなさい。

(事例)

V(高校生)は、東京都内の地上23階建ての公共住宅内に居住していた。

Vは、エレベーターから降りようとした際に、上昇するエレベーターのかごの床面と乗降口上部の外枠に挟まれて死亡した。

この事故の原因は、エレベーターの故障によるものであった。即ち、当時、エレベーターの、ブレーキドラム(ドラム)を挟み込むブレーキライニング(ライニング)と呼ばれる部品が、保守管理の不備により摩耗したままの状態にあり、ライニングが取り付けられたアームがドラムを十分に挟み込むことができず、停止するはずのエレベーターのかごが、扉が開いた状態でつり合い、おもりに引っ張られて上昇したために事故が起きたことが、現場検証により明らかになった。

検察官Pは、①本件事故以前から、本件エレベーターの故障対応を担当しているA社の保守課長X、②A社の代表取締役Yにつき、業務上過失致死罪が成立しないか、捜査を継続中である。

(解答は全て解答用紙に記入すること)